



この道ひとすじ50年 生き続けるかぎり 凧づくりの精魂



「将来は、100種類ぐらいの凧絵を書きたい。とにかく毎日が勉強です」と語る渡辺さん。下絵が命だけに、筆先に精魂を。絶妙な筆さばきが、静かに和紙に走る



骨組みに使う竹は、「虫がつきにくいものを」と、渡辺さんが吟味して選んだものを。こんなところにも細心の注意がはられる

凧づくり50年、一の町に住む渡辺虎之助さん（60歳）は、全国でも数少ない凧師の一人です。屋号を凧助と称するだけに、先祖代々凧師を継ぎ、虎之助さんも5代目として、幼少のころから、きびしい修業を積まされた。

先祖は、白根独特の凧づくりのために、全国を行脚し、各地の凧を研究したという。その秘伝は、虎之助さんにも受け継がれ、六角凧づくりと武者絵の絵柄に鮮やかによみがえる。

「下絵書きのときの、筆やはけの使い方一つでも、いくらまねてもつやがでなかった。つやをだすために10年以上もかかりました」と、絵書きのむずかしさを語る。

戦前は、アメリカや台湾へ輸出していたとのこと。しかし、「人手がなく、手づくりのため、いまでは輸出をしていない」とのことです。

そして、「いまの子どもたちは、凧のつくり方やあげ方などを知らなすぎる。これからは、子どもたちに凧絵の書き方、つくり方、あげ方などを教えていきたい」と話す渡辺さん。訪問客も国内、国外と幅広く、多士済々。だが後継者のいないのが、渡辺さんのたまらない寂しさであろう。



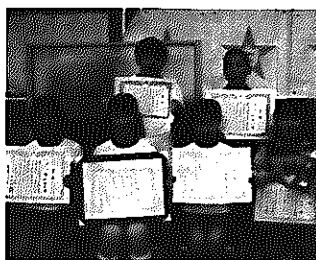
渡辺さん夫婦の仕事場に、ときどき顔を出す孫の葉子ちゃん。かわいいお客さまは、緊張の世界に、ほのぼのとした安らぎをかもしだす



紙のしわをなくすため、一色塗ると二日おき、別の色を塗る――五十年の技術と苦心をそそぐ

二年連続そろばん県一位―やったぞ白根小

さきごろ、新潟商工会議所で行われた第十二回小学生珠算競技大会で、白根小（三浦 稔校長）が二年連続団体優勝し、四回目の県下一の座を獲得。"そろばん白根"の実力を示しました。



白根大火を記念し市街地で消防訓練

四十九年前の「白根大火」を記念して五月十三日、市街地で市民の見守るなか、大がかりな消防訓練を行いました。火災シーズンを迎え、本番さながらの訓練で、市民に火の用心を呼びかけていました。

五月晴れの憲法記念日 晴れ着華やかに成人式

市青年教育センターを会場に新成人約四百人が出席して、成人式が行われました。ふだん着での呼びかけにもかかわらず、あいかわらず和服姿が多い。「はたちの主張」では代表六人が発表、講演もありました。



ワンダフル白根の凧 愛好家の友情交歓



「凧愛好家同志の友情を深めよう」と、さきごろアメリカとオーストラリアの愛好家十一人が当市を訪れました。一行は、白根一中グラウンドで凧あげを楽しむなど、白根の愛好家となごやかに交歓しました。

事故のないようにと交通安全教室を開催

六月二十一日、小林小学校で交通安全教室が開かれました。これは、子どもたちに自転車の安全な乗り方と、正しい歩行の仕方を覚えてもらおうと行っただけです。みんな一生懸命に指導を受けていました。

